

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.12.26-1.1

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

9:1 まことに、私はこの一切を心に留め、このことすべてを調べた。正しい人も、知恵のある者も、彼らの働きも、神の御手の中にある。彼らの前にあるすべてのものが、それが愛なのか、憎しみなのか、人には分からない。

9:2 すべてのことは、すべての人に同じように起こる。同じ結末が、正しい人にも、悪しき者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、いけにえを献げる人にも、いけにえを献げない人にも来る。善人にも、罪人にも同様で、誓う者にも、誓うのを恐れる者にも同様だ。

9:3 日の下で行われることすべてのうちで最も悪いことは、同じ結末がすべての人に臨むということ。そのうえ、人の子らの心が悪に満ち、生きている間は彼らの心に狂気があり、その後で死人のところに行くということだ。

9:4 しかし、人には抛り所がある。生ける者すべてのうちに数えられている者には、生きている犬は死んだ獅子にまさるのだ。

9:5 生きている者は自分が死ぬことを知っているが、死んだ者は何も知らない。彼らには、もはや何の報いもなく、まことに呼び名さえも忘れられる。

9:6 彼らの愛も憎しみも、ねたみもすでに消え失せ、日の下で行われることすべてにおいて、彼らには、もはや永遠に受ける分はない。

9:7 さあ、あなたのパンを楽しんで食べ、陽気にあなたのぶどう酒を飲め。神はずでに、あなたのわざを喜んでおられる。

9:8 いつもあなたは白い衣を着よ。頭には油を絶やしてはならない。

9:9 あなたの空しい人生の間、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。彼女は、あなたの空しい日々の間、日の下であなたに与えられた者だ。それが、生きている間に、日の下でする労苦から受けるあなたの分なのだ。

9:10 あなたの手がなし得ると分かったことはすべて、自分の力でそれをせよ。あなたが行こうとしているよみには、わざも道理も知識も知恵もないからだ。

6節までは「同じ結末がすべての人に来る」という虚無感が満ちていますが、しかし7節からは一転して「神は…喜んでおられる」と、神を認めつつ肯定的な人生観が語られています。一見信仰者の人生観のようですが、しかし「あなたに与えられたむなしい一生」というように、まだここでも虚無感から抜け出してはいません。

おそらく伝道者（著者）は、神を認めない人にも、神を漠然と感じている程度の人にも、また神を信じている人にも共通して受け入れられるような人生観を語っているようです。そのようにして、未信者にも神を認める人生観に触れさせて、そこから神を認め易くすることをねらっているのだと思われれます。

私たちは「喜んで」生きています。また「生活を楽しむ」「自分の力で」精一杯のことをしています。それらは神なき人々とも共通する生き方であり、彼らにも認められるものです。ならばそれを、神の愛によって意義あるものとし、「むなしい一生」ではなく、価値ある一生として生き抜いていきましょう。それが幸いであり、また伝道につながるものでもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 火曜

伝道者の書



9:11 私は再び、日の下を見た。競走は足の速い人のものではなく、戦いは勇士のものではない。パンは知恵のある人のものではなく、富は悟りのある人のものではなく、愛顧は知識のある人のものではない。すべての人が時と機会に出会うからだ。

9:12 しかも、人は自分の時を知らない。悪い網にかかった魚のように、罠にかかった鳥のように、人の子らも、わざわいの時が突然彼らを襲うと罠にかかる。

9:13 私はまた、知恵について、日の下でこのようなことを見た。それは私にとって大きなことであった。

9:14 わずかの人々が住む小さな町があった。そこに大王が攻めて来て包囲し、それに対して大きな土塁を築いた。

9:15 その町に、貧しい一人の知恵ある者がいて、自分の知恵を用いてその町を救った。しかし、だれもその貧しい人を記憶にとどめなかった。

9:16 私は言う。「知恵は力にまさる。しかし、貧しい者の知恵は蔑まれ、その人のことばは聞かれない」と。

9:17 知恵のある者の静かなことばは、愚かな者の間での支配者の叫びよりもよく聞かれる。

9:18 知恵は武器にまさり、一人の罪人は多くの良いことを打ち壊す。

競争も戦いも、必ずしも有利な者が勝つとは限りません。それは法則性もなく偶然であり、神などはいないようにも感じられます。また知恵に関しても、それがあんなら尊重されると期待したところで、結局は「貧しい」など理不尽な理由で忘れ去られてしまいます。それもまた神などいないような出来事

です。

しかし、「知恵は力にまさる。」ということも事実です。仮に「貧しい者の知恵」としてさげすまれても、「知恵は武器に」まさるといことは、誰もが認めることでもあるのです。知恵はこのように神の創造を想起させる入り口でもあります。

かつて哲学者デカルトは、否定しようのない確かなものにたどり着くために、全てを否定してみようという知的探求をしました。それは全てが「むなし」という伝道者の書にあるような知的作業でしたが、結局はそのように全てを否定しつつ考えている自分の存在自体は否定できないことを発見したのです。「我思う。ゆえに我有り。」という有名な命題に至ったのです。そしてこの自分を有るものとされた創造主が存在することを弁証しました。

この箇所にある知恵とはまさにそのようなものです。知恵さえもむなしのものに思えてしまう、そんな人生であっても、そのむなしさを感じている自分自身は存在し、その自分を存在させた方がおられるということです。伝道者（著者）は知恵ということを経験しながら、未信者にそのような思いになることを期待しているのでしょう。

私たちも祈りが聞かれないことによるむなしさを感じるとき、または神がおられるという現実感を失うときがあるかもしれません。そのようなときこそ、否定しようのない神の存在と、自分を愛で創造してくださった神様に祈りで肉薄して、揺るぎない信頼をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 水曜

伝道者の書



10:1 死んだハエは、調香師の香油を臭くし、腐らせる。少しの愚かさは、知恵や栄誉よりも重い。

10:2 知恵のある者の心は右を向き、愚かな者の心は左を向く。

10:3 愚か者は、道を行くときにも思慮に欠け、自分が愚かであることを、皆に言いふらす。

10:4 支配者があなたに向かって立腹しても、あなたはその場を離れてはならない。冷静でいれば、大きな罪は離れて行くから。

10:5 私は、日の下に一つの悪があるのを見た。それは、権力者から出る過失のようなもの。

10:6 愚か者が非常に高い位につけられ、富む者が低い席に座しているのを、

10:7 また、奴隷たちが馬に乗り、君主たちが奴隷のように地を歩くのを、私は見た。

10:8 穴を掘る者は自らそこに落ち、石垣を崩す者は蛇にかまれる。

10:9 石を切り出す者は石で傷つき、木を割る者は木で危険にさらされる。

10:10 斧が鈍くなったときは、刃を研がないならば、もっと力がある。しかし、知恵は人を成功させるのに益になる。

10:11 もし蛇がまじないにかからず、かみつくならば、それは蛇使いに何の益にもならない。

もしも人間か神の存在を認めないなら、人間を含むすべてのものもただ偶然によって存在しているというほかありません。ただ無目的に存在してしまったのだということです。

そして偶然ですからそこには何の判断も価値基準もありません。すべてが無価値で無意味なのです。当然人間の生き方も、知恵ある生き方も愚かな生き

方も、両者には区別がないはずです。神がないとするなら、その論理的な結末はそのような世界観です。いや世界観自体あり得ないのです。

しかしここで伝道者が強調するのは、知恵ある生き方と愚かな生き方があるのだということです。両者は右と左のように相容れないものであり、もしも知恵がなければ、掘る穴に「落ち込み」、作業中に「蛇にかまれる」のです。

「知恵は人を成功させるのに益になる」のだとしたら、この世は知恵によって理解されるような秩序があるのだということであり、そのような秩序を創造された知恵ある創造者がいるということでした。

完全な知恵によって万物を創造なさった神様をほめたたえましょう。その知恵をいただいて生活するとき、また仕事をするとき、まなぶとき、神様に感謝しましょう。

また人類共通の知恵によって、未信者の方とも理解し合い、知恵の源である主を証する機会を探りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 29日 木曜

伝道者の書



10:12 知恵のある者が口にすることばは恵み深く、愚かな者の唇は自分自身を?み込む。
10:13 彼が口にすることばの始まりは、愚かなこと、彼の口の終わりは、悪しき狂気。
10:14 愚か者はよくしゃべる。人はこれから起こることを知らない。これから後に起こることを、だれが彼に告げることができるだろうか。
10:15 愚かな者の労苦は、自分自身を疲れさせる。彼は町に行く道さえ知らない。
10:16 わざわいなことよ、あなたのような国は。王が若輩で、高官たちが朝から贅沢な食事をする国は。
10:17 幸いなことよ、あなたのような国は。王が貴族の出であり、高官たちが、酔うためではなく力をつけるために、定まった時に食事をする国は。
10:18 怠けていると天井が落ち、手をこまねいていると雨漏りがする。
10:19 パンを作るのは笑うため。ぶどう酒は人生を楽しませる。金銭はすべての必要に応じる。
10:20 心の中でさえ、王を呪ってはならない。寝室でも、富む者を呪ってはならない。なぜなら、空の鳥がその声を運び、翼のあるものがそのことを告げるからだ。

この世は神様が創造されたのだということを表すには、私たちクリスチャンが創造の秩序に則って生きて、神様の祝福と栄光を表すのが一番です。それには愚かな者ではなく知恵を持った者として生きることです。それは学歴や能力や経験といったこの世のこととは違います。神様のみこころに叶うという知恵です。

ですからここにあるように、「恵み深い」ことばを口にしましょう。また国の権威者が「幸いな国づくりをするように祈り、またみこころに沿って社会参加していきましょう。そして「なまけ」ことなく、生活の修繕や管理をしっかりとすることによって、神様から与えられた時間や財などを活かしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 金曜

伝道者の書



11:1 あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す。
11:2 あなたの受ける分を七、八人に分けておけ。地上でどんなわざわいが起こるかをあなたは知らないのだから。
11:3 濃い雲が雨で満ちると、それは地上に降り注ぐ。木が南風や北風で倒れると、その木は倒れた場所にそのまま横たわる。
11:4 風を警戒している人は種を蒔かない。雨雲を見ている人は刈り入れをしない。
11:5 あなたは妊婦の胎内の骨々のことと同様に、風の道がどのようなものかを知らない。そのように、あなたは一切を行われる神のみわざを知らない。
11:6 朝にあなたの種を蒔け。夕方にも手を休めてはいけない。あなたは、あれかこれかどちらが成功するのか、あるいは両方とも同じようにうまくいくのかを知らないのだから。
11:7 光は心地よく、日を見ることは目に快い。
11:8 人は長い年月を生きるなら、ずっと楽しむがよい。だが、闇の日も多くあることを忘れてはならない。すべて、起こることは空しい。
11:9 若い男よ、若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたは、自分の思う道を、また自分の目の見るとおりに歩め。しかし、神がこれらすべてのことにおいて、あなたをさばきに連れて行くことを知っておけ。
11:10 あなたの心から苛立ちを除け。あなたのからだから痛みを取り去れ。若さも青春も空しいからだ。

とにあるとはいえ、現実的にはその秩序が感じられない場合があります。秩序に沿って正しいことをしたのに、良い結果が得られないということもあるでしょう。しかし伝道者は、神は忘れたまわず報いを与えてくださるという意味で、期待を込めて「パンを水の上に投げよ」と勧めます。

また風などのように自然現象は人間のコントロールできるものではなく、その中にあっても最善をつくすことを勧めています。さらに光のように自然は良いものであること、その自然の中に生きる人生は楽しむに値するものであることを述べています。

以上は次章の「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」ということばにつながるものと考えられます。人のために生きるべきであること。自然の前の無力さ。しかしそれでも精一杯努力すべきこと。自然の恵み。そして人生の限り有ることなど。これを読む者に人生の秩序へ開眼と謙遜さを感じるように述べられています。

私たちがまたこのような思いを、主の前に持ち、限り有る人生を精一杯生きることによって、自分が人々への証しとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 土曜

伝道者の書



12:1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

12:2 太陽と光、月と星が暗くなる前に、また雨の後に雨雲が戻って来る前に。

12:3 その日、家を守る者たちは震え、力のある男たちは身をかがめ、粉をひく女たちは少なくなって仕事をやめ、窓から眺めている女たちの目は暗くなる。

12:4 通りの扉は閉ざされ、臼をひく音もかすかになり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみな、うなだれる。

12:5 人々はまた高いところを恐れ、道でおびえる。アーモンドの花は咲き、バッタは足取り重く歩き、風鳥木は花を開く。人はその永遠の家に向かって行き、嘆く者たちが通りを歩き回る。

12:6 こうしてついに銀のひもは切れ、金の器は打ち砕かれ、水がめは泉の傍らで砕かれて、滑車が井戸のそばで壊される。

12:7 土のちりは元あったように地に帰り、霊はこれを与えた神に帰る。

12:8 空の空。伝道者は言う。すべては空。

12:9 伝道者は知恵ある者であった。そのうえ、知識を民に教えた。彼は思索し、探究し、多くの箴言をまとめた。

12:10 伝道者は適切なことばを探し求め、真理のことばをまっすぐに書き記した。

12:11 知恵のある者たちのことばは突き棒のようなもの、それらが編纂された書はよく打ち付けられた釘のようなもの。これらは一人の牧者によって与えられた。

12:12 わが子よ、さらに次のことにも気をつ

けよ。多くの書物を書くのはきりがない。学びに没頭すると、からだが疲れる。

12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。

12:14 神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。

人生の最期について語られています。神などいなくても十分に生きていけると思っている人に対して、わざわいの日が来るのだと悟らせようとしているのです。その終わりが近づくなら、「何も喜びもない」という老後や死への思いを通り、そしてだんだん目が暗くなってゆくのです。

3節から5節は老いの様子が記されており、そして「ついに（尊い）銀のひも」が切れるように、いのちの時が切れ、打ち壊されたいのちは元には戻りません。そしてどんな人生を送った人も、その体は土のちりに帰るのです。それを思うと人生は「空の空」としか言いようがありません。

しかし「伝道者」は神の知恵があったので、それで終わりませんでした。その知恵は神を知るといふ最も重要なことのために機能したのです。そして勧めます。「神を恐れよ。神の命令を守れ。」と。

私たちがこの際、人生の最後とその先の永遠を思いながら、神がいなければ「空」、しかしおられるので価値ある人生をみつめ直してゆきましよう。そのうえで、仕事、家庭、教会、勉強、人間関係などを、新たに主から受け取りなおしてゆきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 1日 日曜

ヤコブ



1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、離散している十二部族にあいさつを送ります。

1:2 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

1:3 あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。

1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

1:5 あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

1:7 その人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。

1:8 そういう人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていないからです。

1:9 身分の低い兄弟は、自分が高められることを誇りとしなさい。

1:10 富んでいる人は、自分が低くされることを誇りとしなさい。富んでいる人は草の花のように過ぎ去って行くのです。

1:11 太陽が昇って炎熱をもたらすと、草を枯らしめます。すると花は落ち、美しい姿は失われます。そのように、富んでいる人も旅路の途中で消えて行くのです。

ヤコブ書では行いが強調されていると言うことができます。しかしそれは信仰よりも行いが大切であるとか、行いによって救われるということではありません。

ません。

パウロはエペソ書に、「2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」と書いています。

ですから信仰によって救われ、その救いによって良い行いができるということです。ヤコブもこの理解に立ち、行いのある生きた信仰を勧めているのです。

そこでヤコブはまず、試練に耐えて成長することを勧め、また知恵を求めることを勧め、そして神の価値観で人を見ることを勧めています。信仰によってそのような生き方ができるなら、私たちは良い行いへと導かれ易いのです。

試練、神の知恵、人を見る目に關して、みこころを求めつつ、自分の生き方や考え方を良いものにしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

